

■ 子ども読書活動推進計画が福島県内の全市町村で策定されました

2017年2月に棚倉町が推進計画を策定したことで、福島県内の子ども読書活動推進計画策定率が100%になりました。

■ 『家族読書おススメ図書 100 選』 (安達地区読書活動推進委員会)

安達地区(二本松市・本宮市・大玉村)の教育委員会が連携して安達地区読書活動推進委員会を立ち上げ、家族と一緒に本を親しむ「家族読書」の推進をしています。家族で読書に親しんでいただくための『おススメ図書 100 選』が提唱されました。幼児、小学校、中学校あわせて100冊の推薦図書が掲載されています。

■ 「学校図書館ガイドライン」「学校司書のモデルカリキュラム」

文部科学省が「学校図書館ガイドライン」と「学校司書のモデルカリキュラム」を定めました。「学校図書館ガイドライン」は、(1)学校図書館の目的・機能(2)学校図書館の運営(3)学校図書館の利活用(4)学校図書館に携わる教職員等(5)学校図書館における図書館資料(6)学校図書館の施設(7)学校図書館の評価で構成されており、学校図書館の整備充実を図る上で重要な事項が示されています。

「学校司書のモデルカリキュラム」には、「学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目」と「児童生徒に対する教育支援に関する科目」合わせて20単位が挙げられています。

詳細情報 学校図書館の整備充実について(通知)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380597.htm

学校図書館ガイドライン

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm

学校司書のモデルカリキュラム

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/_icsFiles/afieldfile/2016/12/19/1380597_01_1.pdf

■ 公共図書館・学校図書館職員のための研修会・学習会情報

2017年7月までに開催予定の研修会・学習会情報をお知らせします。

詳細が決まりましたら福島県立図書館のホームページでお知らせします。

■ 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

開催予定日：2017年5月26日(金)

場所：福島県立図書館

対象：福島県内図書館・公民館・司書教諭など学校図書館担当職員

内容：図書館の基本について学習する研修

■ 福島県内図書館初任者実務研修会

開催予定日：2017年6月21日(水)～23日(金)

場所：福島県立図書館

対象：福島県内公共図書館職員(初任者)

内容：初任者の実務研修

■ こどもの本がつなぐスマイルプロジェクト

開催予定日：2017年7月2日(日)

場所：未定

対象：子ども・大人・読書ボランティア

内容：親子で本を楽しむためのフェスティバル(講演とおはなしかい)

東日本大震災を伝える本 ①

東日本大震災から6年が経ちました。あのころ生まれた子どもたち、そして震災後に生まれた子どもたちに震災について聞かれることがあると思います。あの時何がおきたのか、何を考え行動したのかを伝えるときに手渡したい資料を紹介します。震災を思い出したくない、忘れていたいという人も多いと思います。無理をして読もうとしないでください。読んでみたい、何かで子どもに伝えたいと思ったときに、このリストをご活用ください。

は内容を探すためのキーワードです。関連する地域も記入しました。

「たくさんの人に助けてもらったことを伝えたい。」 実話をもとに描かれた絵本

『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』 P/スマ
すとうあさえ 文 鈴木まもる 絵 童心社 2013



支援 燃料
ディーゼル機関車
磐越西線
福島県 郡山市
新潟県
1・2年生～大人

東日本大震災直後、東北本線、東北新幹線、東北自動車道が不通となり、物流が途絶えました。ガソリンスタンドには残り少ない石油を求める車の長蛇の列ができました。そのような時に、磐越西線にディーゼル機関車を走らせ、なんとか福島に燃料を届けようとしてくれた人たちがいました。その実話をもとにした絵本です。

『のっぽのスイブル 155』 P/コマ
こもりまこと [作] 偕成社 2016



支援 復興
水陸両用ブルドーザー
復旧工事
津波
宮城県
1・2年生～大人

錆だらけで眠っていた水陸両用ブルドーザー・スイブル 155 が、地震と津波で壊れてしまった橋を工事するために息を吹き返し、大活躍します。東日本大震災で被災した港や橋の復旧工事をするために、建設機械関係者たちが水陸両用ブルドーザー「D155W」に大がかりな修理をして、蘇らせてくれました。

「大事なことを伝えたい。はげましてもらったことを伝えたい。」

『あさになったのでまどをあけますよ』 P/アリ
荒井良二 著 偕成社 2011



支援 ころ
生活 日常
1・2年生～大人

さまざまな土地に住む人の朝が描かれた絵本です。朝起きて窓を開けると、いつもと変わらない風景がそこにあります。それぞれが毎日見ている家からの景色が広がります。「ここがすき」と思う場所で、いつもの朝を迎えられることのよろこびが力強く描かれています。

『東北んめえもののうた』 P/ハコ
長谷川義史 著 佼成出版社 2012



支援 ころ
郷土自慢
食べ物
福島県
宮城県 岩手県
1・2年生～大人

宮城、福島、岩手のおいしいものが、のびのびと描かれています。「福島には んめえもんが いっぺえ あっぺした」と元気付けてくれた本です。著者は 2011 年に郡山市の小学校に訪れ、子どもたちと一緒に福島のおいしいものを考えてくれました。

「なにがおきたのかを伝えたい。」

『かえるふくしま』 P/やや
矢内靖史 写真・文 ホ・プラ社 2016



原発事故
放射能汚染 環境
動物 カエル
福島県
福島市 大熊町
川内村 浪江町
5・6年生～大人

東日本大震災前から撮り続けてきた福島に生息するカエルの写真集です。豊かな自然がある福島は、さまざまなカエルが棲む「カエル王国」でした。写真に添えられたメッセージには、震災前、震災後、そして今の福島が語られています。

『がんばっぺ まいでいな村』 LS726.7/K7/1
菅野充子 さく かとーゆーこ え
マックファーランド・いずみ&スティーブン やく
SEEDS 出版 2014



原発事故
放射能汚染
避難
福島県
飯館村
3・4年生～大人

「まいでい」とは、手間ひま惜しまず、丁寧に、心をこめて、つつましく、という意味の言葉だそうです。「まいでい」を大切にしてきた飯館村の震災後の日々が描かれています。英語でも読み伝えることができます。

『ほうれんそうはないています』 P/ハ3
鎌田 實 文 長谷川義史 絵 ホ・プラ社 2014



原発事故
放射能汚染
農業 作物
福島県
1・2年生～大人

原発事故で放射線を出す物質が遠くまで飛び散りました。その影響で、ほうれんそう、米、牛乳、カレイ（魚）が食べてもらえなくなりました。「地球とすべてのイキモノとこどもたちを守りたい」という作者たちの思いが込められています。

『おじいさんとヤマガラ』 P/スマ
鈴木まもる 作・絵 小学館 2013



原発事故
放射能汚染
環境 鳥
ヤマガラ
福島県
5・6年生～大人

山の中に住むおじいさんは、毎年 冬になると巣箱をつくり、ヤマガラが来て子育てをするのを楽しみにしています。しかし、原発事故後、巣立っていくヒナが少ししか確認できませんでした。おじいさんは心配しています。原発事故が自然界におよぼした影響は、長い時間を経ないと分からないことがあります。

『希望の牧場』 P/3七
森絵都 作 吉田尚令 絵 岩崎書店 2014



原発事故後、原子力発電所の近くで飼育されて避難することができなかった動物たちがたくさんいました。原子力発電所の近くにあった牧場に残り、牛たちに餌をやり、世話をし続ける牛飼い。警戒区域内にある「希望の牧場・ふくしま」のことをもとに描かれています。

原発事故
放射能汚染
酪農 牛
福島県 浪江町
5・6年生～大人